

ら い 来ぶらり

図書館へ気軽にぶらりと来館していただきたいという思いで命名しました。

図書館を英語で「Library(ライブラリー)」といいます。

No. 123 12月号

2015年12月1日 発行
たつの市立図書館

龍野図書館 TEL(0791)62-0469
新宮図書館 TEL(0791)75-3332
揖保川図書館 TEL(0791)72-7666
御津図書館 TEL(079)322-1007

<http://www.city.tatsuno.lg.jp/library/index.html>



携帯専用サイトへは、
左のQRコードから
(<https://www.lib015.nexs-service.jp/tatsuno-city/mobile/index.do>)

読書と私 No.114

「本、じいちゃんの喜び」

誉田町 松本 有史

近所に住む1歳の孫が、ほぼ毎日遊びに来てくれます。いろんなことに興味津々、積木、ぬいぐるみ、車の模型、櫛、ケータイ等々、本も大好きです。まだ話せないので、お気に入りの本を持ってきて、指さして催促します。それらを読み聞かせるのは、じいちゃんとしての至福の時間です。でも次々と別の本を持ってきたり、読んでいる途中で別のことに興味に移ることもままあります。逆に同じ本を読むように何度も催促することもあります。退職後は時間は充分にあるので、今は孫のリクエストに全て応えています。同じ本を何回も繰り返し読んでいると文章も覚えてしまいます。せなけいこさんの『ねないこだれだ』の文は、空で言えるようになりました。夜9時になっても寝ない子が誰なのか、その子がどうなってしまうのか、ページをめくらないでも物語るができます。

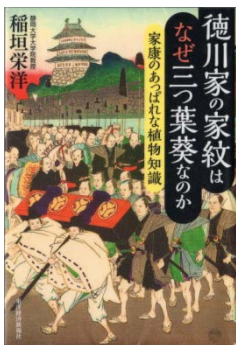
娘が子どもだった時には「最後まで読みなさい」、「同じ本は3回まで」と条件を付けたり、親の価値観で本を選んだりすることもありました。なぜ、今のように、子どもの思いをそのまま受け入れてやらなかったのか、少々後悔しています。

それにしても今の子ども達は恵まれていると思います。昔は自分の家に絵本など数冊しかありませんでした。今では10冊を超える絵本がそれぞれのお家にあるのではないのでしょうか。また図書館を利用できる機会も増え、便利にもなりました。1回に3～5冊程度の貸し出しだったものが、今では10冊を借りることが可能です。

たつの市内の他地区にも、2人の孫がいます。そんな彼らに突然、図書館で「じいちゃん」と声をかけられたことが何度かありました。図書館という空間で孫と一緒に居られること、また図書館で出会ったことがその後の話題の一つになること、これもまた本を通してじいちゃんの喜びを感じる時です。

※『読書と私』は図書館の利用者に執筆していただいています。

『徳川家の家紋はなぜ三つ葉葵なのか』 稲垣 栄洋 著 東洋経済新報社



本書は戦国から江戸時代にかけての植物と人にまつわる事柄を列挙し、今までの歴史書が見過ぎてきたその時代の事情について、十分な科学的根拠を織り交ぜながら解説している。

当時の江戸はイギリスのロンドンをも凌ぐ大都市であった。ロンドンでは伝染病が頻発し、衛生面で問題が起きていたが、江戸ではそのようなことは起きていない。筆者は、江戸の町は下肥の利用などによる植物を主体とした完全なリサイクル都市だった、と述べている。米などの保存のきくものはともかく、生鮮野菜はどうしても江戸の近くで生産する必要があったが、その肥料を江戸の町から出る下肥で賄うという、サイクルができあがって

いた。さらに、衣服の原料のワタやアサ、油を取るためのナタネやエゴマ等とまさに「植物国家」だったといえる。

また、江戸時代に起きた「ハナショウブ」や「変わり朝顔」が作出された園芸ブームを取り上げ、そこで起きた花々の品種改良を詳細に書き記している。朝顔の品種改良は、下級武士によるメンデルに勝るとも劣らない遺伝に関する知識の賜物であった。

最後に、江戸期の武士がキュウリを食べなかったとある。これは徳川の三つ葉葵に関わっており、キュウリを輪切りにした際、その切り口が葵の御紋に似ているからという理由である。

植物と近世日本人がいかに深く関わってきたかを知ることができる。歴史好きな方だけでなく、そうでない方にも興味や関心を生起させるものである。 (新宮図書館 福山)

トピックス

***** 図書館のクリスマスを楽しもう! *****

※申込、問い合わせは各図書館まで

ブラックライト人形劇

暗い部屋の中に人形たちが浮かび上がる不思議な人形劇です。クリスマスのひとときをみんなで楽しもう!!

【日時】12月19日(土)午後2時~3時

※15分前に集合(遅れると入れません)

【場所】新宮図書館 研修室

【出演】人形劇団 わたぐも

【演目】「ぐりとぐらのおきゃくさま」「キャベツくん」ほか

【対象】4歳以上(大人も可) 【定員】60名(要申込・先着順)

【申込】新宮図書館(電話可)

クリスマス オルゴールコンサート

120年前のアンティークオルゴールや、三木孝良氏の手作りオルゴールの音色をお楽しみください。

【日時】12月17日(木)午後2時~3時

【場所】アクアホール 1階ロビー

【曲目】「Die Muhle im Schwarzwald」

「The Holy City」ほか

【定員】25名(子ども可)(要申込・先着順)

【申込】揖保川図書館(電話可)

龍野図書館・揖保川図書館からのお願い

年末・年始の返却ポストの使用について

12月28日(月)~1月4日(月)の期間、返却ポストの使用はご遠慮ください。

※ 長期の休館中には、たくさんの本が返却ポストに入りきらず外にあられます。

本の傷みが激しいためご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。

おすすめする子どもの本・114

『ベンジーのいぬごや』

マーガレット・ブロイ・グレアム 作 わたなべ てつた 訳 アリス館

ベンジーは、耳が長くてしっぽの短い茶色の犬です。2人の子どもとお父さん、お母さんと一緒に住んでいます。寝るときはいつも2人の子どもと一緒に眠ります。

ある日お父さんが「ベンジーはもうこいぬじゃないんだから、そとでねかせたらどうかな。りんごがはいっていたふるいたるでいぬごやをつくってやろう」と言いました。そして、すてきな犬小屋ができましたが、ベンジーだけは気に入りません。いつも子どもたちと一緒に寝ていたのので、2人が恋しくて眠れないのです。そこで、他に寝床を探して町の大通りへ行ってみま

したが、どこも泊めてくれるところはありません。するとパン屋さんが、飼っていた猫がいなくなりさびしくなったので、ベンジーを毎晩泊めてくれるようになりました。

ところがある夜、いなくなっていた猫が子猫をつれて戻ってきていたのです。ベンジーはまた、さびしい犬小屋で眠らなければなりませんでした。

最後には、ベンジーのさびしさを知った子どもたちがお父さんをお願いをして、また一緒に眠れるようになりました。ベンジーと子どもたちの喜び合う姿に読み手は安心します。

ベンジーが家族を恋しく思う気持ちや、子どもたちがベンジーを大切に思う気持ちが、柔らかく温かいタッチの絵で表情豊かに表現されています。読んであげるなら4歳くらいから。（龍野図書館 玉城）

『ジャングル・ブック』 キプリング 作 三辺 律子 訳 岩波書店

幼いモウグリは、インドのジャングルでオオカミに命を助けられた。父オオカミからジャングルでの物事の意味を、黒ヒョウのパギーラからは木登りを、ヒグマのバルーからは動物たちの合言葉を教わり、オオカミの群れの一員として育った。時がたち、群れを率いる老オオカミ、アケイラの力が弱まると、人間であることを理由に三本足の虎シア・カーンに命を狙われはじめる。動物たちが怖れる赤い花（火）を使ってシア・カーンを追い払うが、モウグリは群れの中での居場所を失ってしまった。仕方なく人間の村で暮らし、人間のやり方や習慣を学ぶ。しかし、再び現れたシア・カーンをアケイ

ラとともに追い詰めるうち、オオカミと話せるのは悪の魔術だと村人に恐れられ石を投げられて、ジャングルに戻った。

廃墟となったむかしの都で、王の宝番をしている白いコブラに出会って殺されそうになったり、200匹以上の赤犬の群れに襲われそうになったりするが、モウグリは道具を使ったり、小さき者たち（黒い山バチ）をわざと怒らせる作戦を考えて、赤犬たちをやっつけたりと、ジャングルで身につけた知恵と鍛えられた身体で困難を乗り越えていく。

湿った土の匂いやさまざまな動物たちの息遣いが感じられるジャングルを舞台に、生死をかけた戦いが鮮明に描かれる。仲間の動物たちに見守られながら成長するモウグリの姿が心に残る。小学5年生くらいから。（新宮図書館 藤川）



各館の行事予定

※詳細は各館へお問い合わせください。

館名	行事	対象(上段) ・ 時間(下段)	12月の予定
龍野図書館 TEL(0791) 62-0469	●えほんのじかん	1～3歳児、保護者 第2・第3土曜日(11時～11時20分)	12日・19日 『ころころころ』他
	子どもの本を読む会	一般 ※会場が変更になっています 第2木曜日(10時～11時30分)	10日 『ヒナギク野のマーティン・ピピン』 エリナー・ファージョン 著 『エリナー・ファージョン』 アイリーン・コルウェル 著
	読書会	一般 第2金曜日(10時～11時30分)	11日 『恋歌』 朝井 まかて 著
新宮図書館 TEL(0791) 75-3332	●えほんのじかん	2～4歳児、保護者 第2月曜日・第3日曜日 (11時～11時20分)	14日・20日 『ゆうびんやのくまさん』他
	■おはなしのじかん	5歳児～ 毎週土曜日(10時15分～10時45分)	5日・12日・13日・19日・26日 (12日・13日は、おはなしのあとミニ おりがみ教室 11:15まで) 『ペチューニアのクリスマス』・クリス マス のおりがみ
揖保川図書館 TEL(0791) 72-7666	●えほんのじかん	3～5歳児、保護者 第2・第3土曜日(10時30分～10時50分)	12日・19日 『ちいさなろば』他
	■おはなしのじかん	小学生以上 第2・第3土曜日(11時～11時30分)	12日・19日 「こびととくつや」他
	読書会	一般 第3金曜日(10時～12時)	18日 『その木戸を通して』 山本 周五郎 著
御津図書館 TEL(079) 322-1007	●えほんのじかん	1歳～4歳児、保護者 第2・第3日曜日(11時～11時20分)	13日・20日 『クリスマスのふしぎなはこ』他
		5歳児～ 第2・第3日曜日(11時30分～11時50分)	13日・20日 『かさじぞう』他
	読書会	一般 第3水曜日(13時30分～15時30分)	16日 『ロスジェネの逆襲』 池井戸 潤 著